





③ **LINK/ACT LED (緑)**  
ポートと接続先機器がリンクしたときに点灯します。また、パケットを送受信しているときに点滅します。

④ **FULL LED (緑)**  
ポートが Full Duplex で動作しているときに点灯します。消灯している場合は、Half Duplex で動作していることを示します。

⑤ **10BASE-T/100BASE-TX ポート**  
10BASE-T、または 100BASE-TX の UTP ケーブルを接続するためのコネクタです。これらのポートはオートネゴシエーション機能をサポートしているため、最適な通信速度 (10Mbps/100Mbps) と通信モード (Full Duplex/Half Duplex) を自動設定します。

⑥ **電源コネクタ (FS705TX)**  
FS705TX に電源ケーブルを接続するためのコネクタです。

⑦ **DC ジャック (FS705EX)**  
FS705EX に DC プラグを接続するためのコネクタです。

⑧ **フック (FS705EX)**  
DC 電源ケーブル固定バンド用のフックです。

## 4 設置

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。

### 設置準備

#### ● 接続ケーブルを用意する

すべてのケーブルが機器筒を接続するために適切な長さであることを確認します。

	ケーブルの種類	ケーブルの最長距離
10BASE-T	UTP ケーブル (カテゴリ-3 以上)	100m
100BASE-TX	UTP ケーブル (カテゴリ-5 以上)	100m

#### ● 設置場所を確認する

本製品を設置する場所を確認してください。設置場所については、以下にご確認ください。

- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本体側面をふさがないように設置してください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- コネクタの端子にはさわらないでください。(静電気を帯びた手(体)でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。)

### 設置

#### ● 平らなところに設置する (ゴム足を取り付ける)

本製品をデスクの上などに設置する場合は、本体底面の四隅にある○型のくぼみに同梱のゴム足を貼り付けてください。ゴム足は本体を固定し、衝撃を吸収するクッションの役目をしますので、本製品をデスクの上などに設置する場合は、必ずゴム足を使用してください。

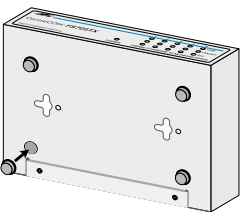


図3 ゴム足の取り付け

#### ● 壁面に取り付ける (タッピングスクリーを使用)

ウォールマウント用タッピングスクリー (必要な場合は、プラスチックアンカー) を使用すると、本製品を壁などの垂直な面に取り付けることができます。

**ヒント**  
取り付けはしっかりした壁に行ってください。手で押しただけでへこんでしまうような壁には取り付けしないでください。

**ヒント**  
石膏ボード、ベニヤなど中空になっている壁に取り付ける場合は、プラスチックアンカーを併用してください。

**ヒント**  
本製品には、ウォールマウント用タッピングスクリーおよびプラスチックアンカーは同梱されていません。使用の際は、お客様にてご用意ください。

#### 1. 設置場所と設置方向を決める

電源ケーブルおよび UTP ケーブルの接続が可能であること、また、LED の表示が監視可能であることを確認してください。

#### 2. タッピングスクリーを埋め込む位置を決める

タッピングスクリーの間隔が本体底面にある 2 つの取り付け穴の間隔 (75mm) と同じになるように注意してください。

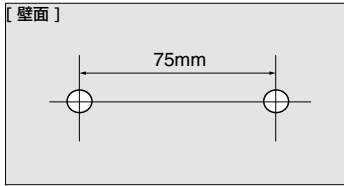


図4 タッピングスクリーの間隔

**ヒント**  
ネジがたたない壁への取り付けには、プラスチックアンカーを使用します。プラスチックアンカーは、きりやドリルなどで開けた穴に挿し込み、かなづちで軽くたたいて壁に埋め込みます。

**注意**  
穴はプラスチックアンカーが入る程度の大きさにしてください。穴が大きすぎると落下の原因となります。

#### 3. タッピングスクリーをねじ込む

ネジの頭と壁の間を 1mm ほど残して、壁 (または、プラスチックアンカー) にねじ込みます。

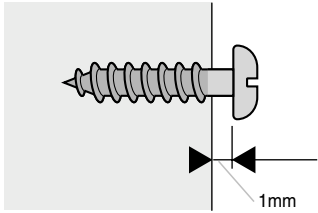


図5 タッピングスクリーのねじ込み

#### 4. 本体を壁に取り付ける

壁から突き出ているネジ頭を本体底面の取り付け穴にさし込むようにして取り付けます。このとき、ネジ頭がスロットにはまるまで本体をスライドさせ、しっかり固定させてください。

**注意**  
ネジ頭を壁から出し過ぎた状態にてご使用になりますと、本体を壁に取り付けた際に製品内部に干渉し、故障の原因となります。

#### ● 壁面に取り付ける (マグネットキット使用)

本製品は、同梱のマグネットキットを使用して、OA デスクの横などの垂直な面に設置することができます。同梱のマグネットキット取付用ネジを使用して本体に固定します。

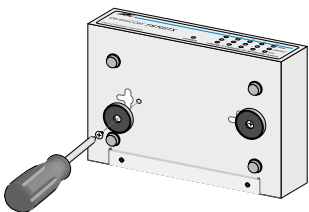


図6 マグネットキットの取り付け

**注意**  
マグネットおよびのマグネット取付用のネジは本製品に付属のものを使用してください。

**ヒント**  
マグネット用のネジ穴は本体底面のタッピングスクリー取り付け穴のそばにあるネジ穴を使用してください。

**ヒント**  
マグネットは、ウォールマウント用タッピングスクリーと同時に使用することはできません。

### マグネットキットの使用に関する注意

**禁止**  
機器をマグネットで高所に取り付けしないでください。落下によるケガ・機器破損の恐れがあります。

**禁止**  
振動・衝撃の多い場所や不安定な場所に設置しないでください。落下によるケガ・故障の原因となることがあります。

**禁止**  
OA デスク等にマグネットで機器を取り付けたまま、機器をずらさないでください。被着面の塗装などに傷がつく恐れがあります。

**禁止**  
マグネットにフロッピーディスクや磁気カードなどを近づけないでください。磁気の影響により記録内容が消去される恐れがあります。

**禁止**  
機器をマグネットでパソコンおよびディスプレイなどの電子機器には取り付けしないでください。

**禁止**  
設置面の状態によってはマグネットの十分な強度を得られないことがあります。

**指示**  
取り付けの際は機器およびケーブルの重みにより機器が落下しないように確実に取り付け・設置してください。ケガ・故障の原因になることがあります。

## 5 接続

### 通信速度 / 通信モードの設定

本製品と接続先機器の通信モードは、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

IEEE802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品の 10BASE-T/100BASE-TX ポートを接続する場合は、接続先機器の通信モードを Half Duplex に設定してください。

	FS705TX/EX	
	オートネゴシエーション	
接続先ポート	10 M Half 固定	○
	10 M Full 固定	—
	100 M Half 固定	○
	100 M Full 固定	—
	オートネゴシエーション	○

### UTP ケーブルの接続

#### 1. 本製品に UTP ケーブルを接続する

本体前面の 10BASE-T/100BASE-TX ポートに UTP ケーブルを接続します。

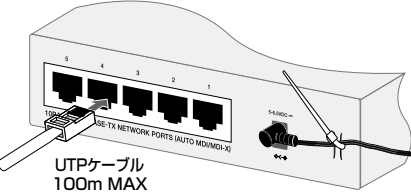


図7 UTP ケーブルの接続 (FS705EX の例)

#### 2. UTP ケーブルのもう一方を端末と接続する

ネットワークに接続する端末に 10BASE-T/100BASE-TX ネットワークインターフェースカードが正しく取り付けられていることを確認し、UTP ケーブルのもう一方を端末のネットワークインターフェースカードに接続します。

### 電源ケーブルの接続 (本製品の起動)

本製品は、電源ケーブル (または AC アダプター) を電源コンセントに接続することで自動的に電源が入ります。

**警告**  
本製品を使用する場合には、必ず製品に同梱されている電源ケーブル (FS705EX の場合は、AC アダプター) をご使用ください。不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

**注意**  
本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

#### ● FS705TX の場合

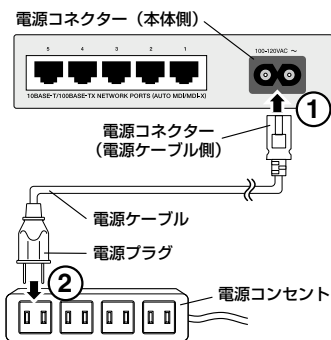


図8 電源ケーブルの接続

#### 1. 本体側の電源コネクタを接続する

図8の①をご覧ください。

#### 2. 電源プラグを電源コンセントに接続する

図8の②をご覧ください。このとき、本体前面の POWER LED (緑) が点灯することを確認してください。UTP ケーブルが正しく接続され、接続先機器の電源が入っていれば、接続したポートの LINK/ACT LED (緑) が点灯します。

#### ● FS705EX の場合

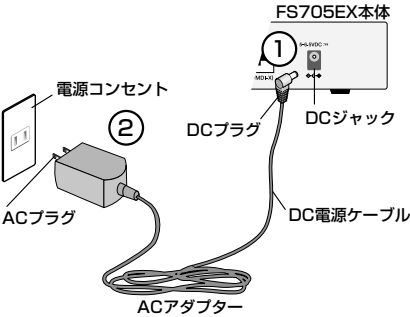


図9 AC アダプターの接続

#### 1. DC プラグを DC ジャックに接続して DC 電源ケーブルを固定する

##### 1-1. DC プラグを DC ジャックに接続する

図9の①をご覧ください。

##### 1-2. DC 電源ケーブルを固定する

FS705EX には、DC 電源ケーブル固定バンドが同梱されています。安全にご使用いただくために次のとおり正しく取り付けてください。

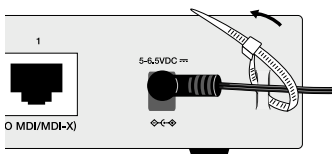


図10 DC 電源ケーブルの固定

DC 電源ケーブル固定バンドを本体背面のフックに通し、上図のように固定バンドをしっかりと結びます。

**注意**  
DC 電源ケーブル固定バンドをフックに差し込む際に、バンドの先端を本体の中に差し込まないように注意してください。故障の原因となります。

#### 2. AC アダプターを電源コンセントに接続する

図9の②をご覧ください。このとき、本体前面の POWER LED (緑) が点灯することを確認してください。UTP ケーブルが正しく接続され、接続先機器の電源が入っていれば、接続したポートの LINK/ACT LED (緑) が点灯します。

#### ● 本製品の停止

本製品を停止するには、電源コンセント側のプラグを抜いてください。

**警告**  
電源コンセント側に差し込んだまま、本体背面に接続した電源コネクタ (または DC プラグ) を抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

**ヒント**  
電源をオフしてから再度オンにする場合は、しばらく間を空けてください。

## 6 スタンドアローン

本製品は単純なスタンドアローンの環境で使用できます。本製品と端末間の UTP ケーブルの長さは 100m 以内にする必要があります。

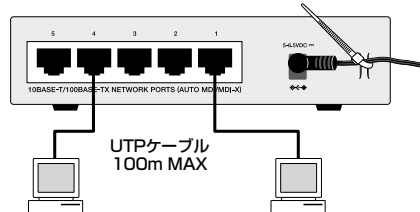


図11 スタンドアローンの接続例 (FS705EX の例)

## 7 カスケード接続

本製品は、すべてのポートで MDI/MDI-X 自動切替機能をサポートしていますので、ケーブルの種類 (ストレート/クロス) および接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) を意識することなく、簡単にカスケード接続ができます。

**ヒント**  
スイッチ同士のカスケード接続は、カスケードできる数に理論上の制限はありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

**ヒント**  
カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

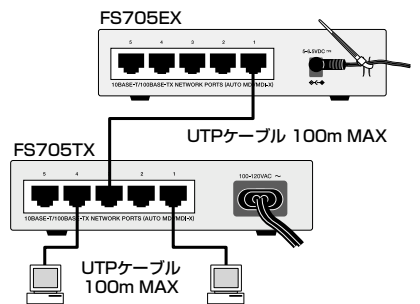


図12 カスケード接続の例

本体背面の任意のポートに UTP ケーブルを接続し、もう一端を接続先機器の任意の 10BASE-T/100BASE-TX ポートに接続します。

## 8 トラブルシューティング

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

#### ● POWER LED は点灯していますか?

POWER LED が点灯していない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

#### ● 電源をオフにした後、すぐにオンにしていませんか?

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

#### ● LINK/ACT LED は点灯していますか?

LINK/ACT LED は接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。点灯しない場合、以下のことを確認してください。

○ 接続先機器に電源が入っていることを確認してください。また、端末に取り付けられているネットワークインターフェースカードが正しく接続され、障害がなく通信可能な状態にあることを確認してください。

○ 正しい UTP ケーブルが断線なく正しく接続されていることを確認してください。

○ ケーブルの長さが制限を越えていないことを確認してください。2つのネットワーク機器の直接リンクを形成する UTP ケーブルは最長 100m と規定されています (ただし、100Mbps のクラス II のリピーターをカスケード接続する場合のリピーター間は 5m 以内としてください)。

○ ケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。特定のポートが故障している可能性もあります。

○ UTP ケーブルに問題がないか確認してください。ケーブルの不良は外観からは判断しにくい (結線は良いが特性が悪い場合など)、他のケーブルに交換して試してみてください。

○ 接続先機器の通信モードを確認してください。本製品の 10BASE-T/100BASE-TX ポートは、オートネゴシエーション機能をサポートしています。IEEE802.3u 規格のオートネゴシエーション機能をサポートしていない製品と本製品の 10BASE-T/100BASE-TX ポートを接続する場合は、接続先機器の通信モードを Half Duplex に設定してください。

#### ● HUB の接続段数は正しいですか?

リピーター (= HUB) の数が制限を越えていないか確認してください。

○ イーサネット (10Mbps) の場合、カスケードできるリピーターの台数は、最大 4 台までとされています。

○ ファーストイーサネット (100Mbps) の場合、クラス II のリピーターは、1つのコリジョンドメイン内で 2 台までをカスケード接続することができます。その場合、リピーター間のケーブルの長さは 5m 以内としてください。クラス I のリピーターはカスケード接続することができません。